

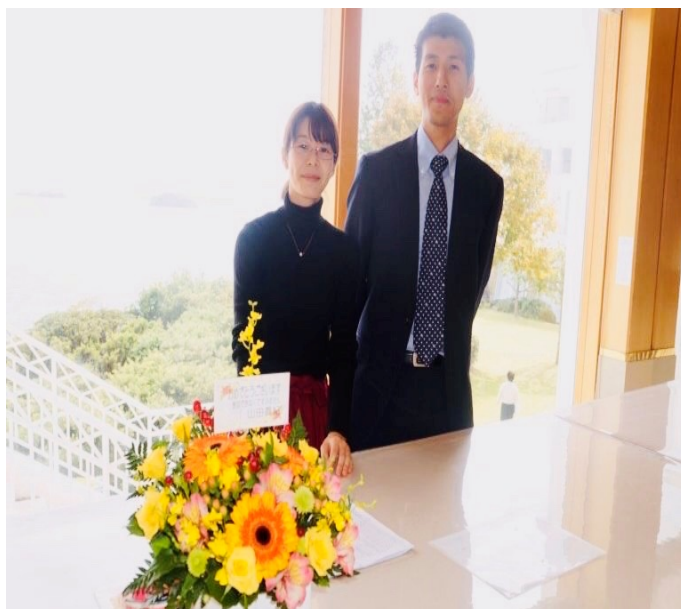
# 太田東西かわら版

2020.7

## 死別は卒業式、結婚は入学式 ～ 家族の新陳代謝～

### 太田東西かわら版

2020.06 番外編



いつも父や母がお世話になっております。太田東西の長男の<sup>ひいと</sup>誓斗です。  
さてこの度私事ではございますが、今月6月11日に入籍いたしました。お相手は千葉県出身で看護師をしております“木曾奈苗（きそななえ）”さんです。

表紙の太田東西かわら版<番外編>。長男から送られて来たものです。  
その宛先は両親ではなく、薬局のお客様にに向けたものでした。

誓って、父親の私からの「書きなさい！」という強制ではなく・・・  
薬局のお客様に向けての自発的行動でした。

息子なりに感謝の気持ちをお客様に伝えたかったそうです。これまでの  
自分の食費、学費、生活費。すべては薬局のお客様が支払ってくださった  
お金ですから。改めて親の私たち夫婦からも御礼申し上げます。m(\_\_)m

さて、その番外編は一足先に<太田東西ブログ>に掲載しました。

(<太田東西ブログ>は薬局ホームページからご覧いただけます)

それをお読みくださったお客様から

「感動しました」「涙が出ました」。有り難いご感想をいただいたのですが  
どこに感動されたのか？ 伺ってみると、皆さん同じ答えでした。  
この部分 でした。

しかし、高学年になり大きな問題を起こした。

父に張り手でほっぺをひっぱたかれた。父も渾身の張り手だったと思う。

冗談ではなく2メートルは身体が吹き飛んだ(笑)

あの張り手は今でも強烈に脳裏に焼き付いている。痛かったなあ～。

小学校高学年～中学校時代は自分でいうのもなんだが少々荒れていた。

特に母とはよくケンカをした。理由は些細なことで全く覚えていないが、「うざっ！」「だまれ！」

「くそばばあ！」「〇ね！」など言葉の暴力全開で自分の部屋のドアを思いっきり閉めていた。(最近判  
明したのだが、当時弟は、お前のそれがうぜーよ、とっていたそう笑)

母はそれを父に逐一報告し、父からもまた怒られる、その繰り返しであった。

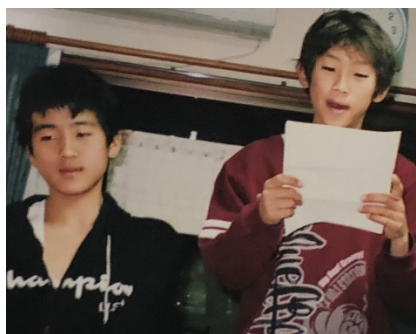
母のその行為にも腹が立っていたのを覚えている。あいつチクリやがって～的な(笑)

思春期の反抗期。本人も「親への依存と親からの自立」。その葛藤に苦し  
んだでしょうが、息子の反抗的言動に妻も心を痛めていました。  
当時を象徴する写真がありました！



親とのツーショット。実に、つまんなさそうですね！(^-^)

弟や祖父母からお祝いされても、ふてくされた顔をしていました。



反抗期の特徴は、家族の前ではしゃべらない。笑顔を見せない。一転、友達の前ではニコニコ笑って盛り上がる。(^-^)

長男のかわら版をご覧になって感動されたお客様は共通して反抗期のお子さんを持つお母さんたちでした。

きっと、我が身を重ね合わされたのでしょうかね・・・(泣)

「うざかっ!」「ムカつく!」「わかってる!」「知らんし!」「うるせえ!」反抗期の子どもの“常套句”です。

当時そんな長男を見て、同じ男としてその反抗ぶりを理解していましたが許容範囲を越した事件が2回ほどあり、ビンタで吹っ飛ばしました。もちろん家庭の空気は重くなり、会話も笑顔もなくなります。

その時は険悪になる。しかし、本気で本音で親子が向き合って、そこから逃げなかったからこそ、長男は以下のように成長したのだと思います。

母は考えすぎることがあるが、最近は色々なことにチャレンジしていて生き生きとして子供として見ていてすごく嬉しい。また、暴走気味の太田家の男どもをしっかり制御してくれているあたりはさすがである。女性がしっかりしている家は幸せである理由がよく分かる。いつでも優しい母が大好きであるし、今後も少しずつ恩返ししていきたいと思っている。

すべては表裏一体。ほんとうの幸せ、ほんとうの感謝、ほんとうの健康というものは・・・

どん底の不幸、すさまじい反抗、命をおびやかされる病気。そうした<正反対を経験してこそ得られる>と私は実感しています。

人は平穏無事・無病息災を、親は聞き分けの良いおりこうな子どもを望みますが、それでは“薄っぺらな人間”“偽善家族”になるものです。

これは長男が大学1年生の時、母親に送った手紙です。

(本人も忘れていた手紙ですが、父の私は大切に保管していました^^)

母さんへ P.S. 下手な文章けど  
カンパシして〜

“母の日”ということで手紙を書いてみようと思います。  
まず、改めて言うの耻心かはいけど、今まで面倒見てくれて  
ありがとう。毎日毎日、本当に感謝していました。  
太田家を支えているのは親父と思われがちだけど、  
母さんが太田家の大部分を支えていたと思います。  
いや、正確に母さんが支えていました。  
仕事OFFモードの親父では...頼りになりません!!笑  
僕にも中々のころが反抗期でたくさん迷惑かけて  
とても大変だったと思います。ノブが今そんな感じだけど  
母さんなら大丈夫だ”と思います。ちゃんと母さんの気持ち  
は少なからず分かっているはずだから。  
僕はシャイなので、あまりこういう慣れはないですが、母さんには  
毎日毎日感謝していました。もちろん今も上京させてくれていること  
に感謝しています。  
ここだけの話、4月1日の上京する日、港まで送ってもらって  
船に乗った後、ホロホロ一番後ろの席に移動して大泣きました。  
今でも思い出してウルウルします。そのくらい僕は母さんが好きだ。

もし今、子育てで悩んでいる親御さんがいたら.....

太田東西薬局以上に、<太田東西家族>を信じてください。☺

我が家と同じように、きっとなつかしい思い出に変わりますよ。

子育てで大切なことは、子どもに「自分から気づかせる」こと。

自分から気づいて行動が変わる。それを親は「信じて待つ(見守る)」。

先月号の太田東西かわら版では、父との死別の内容でした。

常識や世間体では「忌引中につき今年の結婚は控える」が正解でしょう。

でも我が家は違います! 家族というのは、減って増えての新陳代謝が  
あたりまえの組織。問題はそこで何を営むか? です。

家族である意味は、形式ではなく

**<家族愛> <家族力> を育むこと。**

それを後世に残すために、

感謝と思いやりを忘れず生きるのです!

ふてくされていた顔がこんな笑顔になりました( )

